

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人札幌市芸術文化財団	
施設名	札幌芸術の森	
内定額	12,584	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		335	334
年間事業本数（※1）	主催事業	17	18
	公演事業	2	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	2
	普及啓発事業	12	12
	（内、本助成対象事業本数）	0	6
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	640	667
	ホール名：アートホールアリーナ 座席数： 600	234	226
	ホール名：アートホール大練習室 座席数： 300	171	174
	ホール名：アートホール中練習室 座席数： 150	195	231
	ホール名：野外ステージ 座席数： 5000	40	36
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	80,760	82,550
	公演事業	3,160	4,000
	人材養成事業	600	550
	普及啓発事業	77,000	78,000
	その他 内容： 記入してください		
	貸館事業入場者・参加者数	14,620	19,612
	その他 内容： 記入してください		
	計	95,380	102,162
施設の利用率(%)		58.5%	60.2%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	2	9	3,157	84.0%		2					
	共催・提携公演（※2）	2	2	1,372	30.0%		1					1
	貸館公演（※3）	46	56	15,540	22.0%		38	5	1			2
	計	50	67	20,069								
令和6年度	主催公演（※1）	2	8	4,072	77.0%		2					
	共催・提携公演（※2）	2	2	1,135	25.0%		1					1
	貸館公演（※3）	43	50	21,151	34.0%		37	3	1			2
	計	47	60	26,358								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標 値	実績 値							
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値</								

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点					
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)					

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業	・育成対象者の事業参加後の反応 ・参加者の属性 ・指導者による評価	・アンケートで高評価を得る(「また参加したい」と回答する人が70%以上、等) ・参加者の性別・年代の多様性を図る ・インタビューで概ね高評価を得る	・育成対象者の事業参加後の反応 ・参加者の性別・年代の多様性を図る ■ジャズセーパーズ 「また参加したい」⇒はい83.8% 運営(撮影):男性38%(58%)、女性62%(42%) 〈属性〉年齢11〜85歳、平均52.47歳 ■札幌ジュニアジャズスクール 「また参加したい」⇒はい100% 〈属性〉男性18人、女性23人、小学1年〜中学3年 ■北海道グループキャンプ 「セミナー全体の満足度」⇒とても良かった100% 〈属性〉男性26人、女性12人、年齢9〜62歳 ・インタビューで概ね高評価を得る ■札幌ジュニアジャズスクール 子供たちの状況を把握し問題に対処したり、新たにアレンジした楽曲が子供たちの積極的な活動に繋がるなど、スクールの充実を図ることができたと講師から評価を得た。	・育成対象者の事業参加後の反応について、対象事業のいずれについても、「また参加したい」、「とても良かった」との評価が80%〜100%と、目標を達成することができた。 ・参加者の属性については、いずれの事業も性別に偏りなく、またジャズセーパーズ、北海道グループキャンプについては非常に幅広い年代の方が参加し、構成の多様化を図ることができた。札幌ジュニアジャズスクールについても、小中学生の枠の中で小学1年〜中学3年までの生徒が偏りなく参加している。 ・事務局スタッフと講師間のミーティングを定期的に重ね、楽曲のアイデアや、日々起こっている事柄について、事務局スタッフと講師間のミーティングで情報共有を行い、相互で役割を分担し、子どもたちが安心してのびのびと活動できる環境と事業内容の工夫を行うことができた。		
普及啓発事業	・来場者の反応 ・新規来場者数	・アンケート回答者の70%以上が「また来たい」と回答 ・アンケート回答者の10%以上が「初めての来場」と回答	・来場者の反応 ・新規来場者数 ■ノースジャム”ピクニック”セッション 「総合満足度」⇒とても満足・満足86% 「初めての来場」⇒38% ■ユニバーサルジャズライブ 「総合満足度」⇒とても満足・満足86% 「初めての来場」⇒27%	・来場者の反応について、統計を取ったノースジャム”ピクニック”セッション、ユニバーサルジャズライブともに、「総合満足度」が86%となり、目標を達成することができた。 ・新規来場者数については、統計を取ったノースジャム”ピクニック”セッション、ユニバーサルジャズライブともに、「初めての来場」が10%以上となり目標値を上回り、新たな層への事業の普及に繋げることができた。		

(2)「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・(企画力、影響力)15回目となった「北海道グループキャンプ」はパークリー音楽大学の教授タイガー大越が主任講師を務め、他教授と共にプログラムをつくり、受講生(レベル・年齢等)の状況に合わせ指導をチームで行う。優秀な受講生を見出し、パークリー音楽大学の夏期セミナーを無料で受講できる権利を与え、視野を広げ、同世代の音楽を志す世界の仲間との出会いと成長の機会を与えている。これまでの受講生からプロとして活躍する人材が多く育ち、日本のジャズシーンを牽引しており、当該事業実施による影響力は大きい。今回初めてOB講師として参加したテナーサックス馬場智章は当該事業の開始の2006年の受講生であり、育成事業の循環の成果を伝えることができた。
・(企画力)普及啓発事業である「ノースジャム”ピクニック”セッション」は、これまで鑑賞機会の創出を主な目的とした野外ライブ「ノースジャムセッション」に”ピクニック”の要素で芸術の森という複合施設ならではの特性を加え、世代を超えてより楽しむことができる体験型要素のあるイベントとした。 ※芸術の森は美術館・クラフト工房・工芸館・アートホール・市内唯一の常設野外ステージなど、音楽だけでなく様々なアートから成る複合施設であるが、園内にそれぞれが独立した建物として存在しているため、分野を跨いでの企画は数少ない現状があった。当該事業では、各施設との協業でピクニック要素を付加。 [具体的企画内容と効果] ①芸術の森美術館で同時期に開催された「水木しげる展」とのコラボ企画として、「ようかい割」という当日券特別割引を設定し、美術館の来場者層へのアプローチを図った結果、予想を上回る当日券販売数となった。 ②芸術の森クラフト工房とのコラボ企画として、会場内に「円形木琴をつくろう」「和製のちぎり絵うちわ」「ウッドアゴゴをつくろう」の3種類の製作体験を行うブース(テント)を設置し、子供をはじめ多くの方がライブを聴きながら製作体験を行った。制作物に關してはすぐに使えるうちわや音楽に合わせて音を鳴らすことができる楽器を選定することで、ライブの楽しさも増幅する効果を狙った。 ③市内楽器店とのコラボ企画として、会場内で小さい子供も参加できるサクソ・トロンボーン・トランペットの楽器の体験ブースを設けた。ライブでプロが演奏している楽器に実際にその場で触れる機会を作り出すことでより身近にライブを感じられると高評価を得られた。また、地元ビッグバンドの出演者が一緒に体験ブースで楽器を演奏するなど交流の場にもなった。 ④従来から好評の飲食ブースでは、ライブとともに楽しむ”食”にも力を入れ、芸術の森近郊のレストランをはじめ、ジェラート、ザンギ、カレー、タコス、スイーツなど、多種多様な人気のキッチンカーに出店を依頼し、来場者がピクニックのワクワク感を感じられるような空間づくりを図った。
・(制作力)「ユニバーサルジャズライブ」は、長年に渡る人気企画で地元の音楽事業者ハウスオブジャズが企画・制作を担当。事務局と打合せにより、テーマを決定、出演は内容に適した地元ミュージシャンを起用。人気ラジオDJのMCで初心者でもわかりやすい内容と人気を実現している。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・事業参加者の行動変化 ・事業参加外国人による日本への関心度	・アンケートにて、「外国人との交流を行うことができた」と回答する人が30%以上 ・事業にかかわる訪日外国人の方を対象に、事業終了後、職員が直接またはメールでインタビューを行い、事業の感想とあわせて、日本への関心度について、変化の度合いを確認する。	・事業参加者の行動変化 ⇒札幌ジュニアジャズスクールのアンケートにて、72%がノルウェーのキッズジャズバンド「インプロバースン」のメンバーとの交流について、肯定的に回答。 ・事業にかかわる訪日外国人の方を対象に、事業終了後、職員が直接またはメールでインタビューを行い、事業の感想とあわせて、日本への関心度について、変化の度合いを確認する。 ⇒ノルウェーから来札した2名の中学生からのアンケート回答では、ホームステイやアクティビティを通して日常生活を知ることができ楽しい体験となったことや日本人が親切で、食べ物もおいしく、絶対にまた来たい、との記載を得た。	・事業参加者の行動変化 札幌ジュニアジャズスクールの活動アンケートにて、令和7年1月に札幌を訪れたノルウェーのキッズジャズバンド「インプロバースン」のメンバーとの交流について、「国外の人と交流することはあまりないので楽しかった」、「異国の方との交流は初めてで、すごく楽しかった」、「海外の同年代のジャズスクール生との交流で、一緒にセッションができて楽しかった」など、外国人との交流の機会を得られたことに対する肯定的な意見が72%と高い割合を占めた。 また、北海道グループキャンプのアンケートにおいても、「韓国と日本全国のジャズを学びたい同年代の人とつながることができた」、「国籍、年齢に関係なく楽しい時間を過ごすことができた」、「各地からの参加者がいて、世界が広がった」など、韓国からの受講生との交流についての言及が見られ、事業による国際交流が実現していると評価できる。 ・事業参加外国人による日本への関心度 札幌ジュニアジャズスクールとノルウェーのキッズジャズバンド「インプロバースン」との交流では、ジャズを通してであった異国の同世代の子どもたちが、わずか2時間であったが、ホームステイや音楽以外の雪だるまづくりやゲームなどのアクティビティを通して、互いにコミュニケーションを取り合おうとする意識が多くの子どもにみられ、相手の影響を受け成長しようとする様子も見られた。ノルウェーの子どもたちの日本への関心度は、この経験により大きく高まったと評価できる。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・(国際交流)「北海道グループキャンプ」では、過去参加実績のある韓国の「コリア・ジュニア・ビッグバンド」に参加を呼びかけ、5名の受講生が参加した。 パークリー音楽大学の教授の指導を受けることができ、優秀な受講生にはパークリー音楽大学サマープログラムを授業料免除で受講できる「パークリー賞」を授与する本事業は、世界でも珍しく、隣国韓国からの参加により国際的なアピールに繋がった。 韓国からの参加メンバー1名がパークリー賞を受賞し、2025年7月のサマープログラムの受講に向けて準備を進めており、優秀と認められた場合国籍を問わず受賞される実績ができたことにより、次年度以降の本事業の国際性の向上に繋げることができると考える。 韓国からの受講生受け入れのため韓国語通訳を採用、安心して受講できる環境を整えた。日本と韓国両国の受講生が同じクラスで学び合うことで、文化的な影響等から互いに異なる表現力や演奏方法に刺激を受け合い。視野を広げ、自身の振り返りや新たな気づきを得るなど、積極的になる様子がうかがえた
--

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
・市民ボランティアの数 ・新たなコミュニケーションの創出 ・生活の質(QOL)の向上度 ・貸館利用者の満足度	・前年度実績+3% ・参加者へのアンケートで「知り合いや新しい仲間が出来た」と回答する人が10人以上 ・参加者へのアンケートで「参加することがやりがいや生活の楽しみになっている」と回答する人が20人以上 ・75%以上が対応に「満足」「ほぼ満足」と回答	・市民ボランティアの数 ⇒R6:(延べ)446人が参加し、R5:(延べ)365人+3%=376人を上回った。 ・新たなコミュニケーションの創出 ⇒ジャズセーバーズ(市民ボランティア)参加者アンケートにて「知り合いや新しい仲間が出来た」に類する回答をした参加者が約7人。 ・生活の質(QOL)の向上度 ⇒ジャズセーバーズ(市民ボランティア)参加者アンケートにて「参加することがやりがいや生活の楽しみになっている」に類する回答をした参加者が約8人。 ・貸館利用者の満足度 ⇒「満足」「ほぼ満足」と回答した方の割合95.8%の達成。	・市民ボランティアの数は、募集ポスターやチラシ、サッポロ・シティ・ジャズ公式ガイド等の広報物での周知が功を奏し、男女問わず10代～80代までの市民が延べ446人参加。目標値を上回った。 ・新たなコミュニケーションの創出については、ジャズセーバーズ(市民ボランティア)参加者アンケートの自由記述にて、「普段交流のない小学生から外国の方まで、いろいろな方と触れ合えてとても良い刺激をもらえて本当に楽しかった」、「さまざまな年代の方達と知り合い、協力して、楽しく、とても良い勉強にもなっている」、「知らない人と同じ作業を通して一体感が芽生えた」等の回答が約7件あり、数字としては目標値には達していないが、一定の成果が得られたものとする。今後もシフトの偏りに留意し、満遍なくコミュニケーションが生まれるよう考慮する。 ・生活の質(QOL)の向上度については、ジャズセーバーズ(市民ボランティア)参加者アンケートの自由記述にて、「(他の)セーバーズの方との繋がりも暖かいものがあり、今年度も参加した」、「いつも撮影の割り当てが来るのを楽しみに待っている」、「毎回新しいシーンに出会えるのが楽しい」、「イベントを成功させたい、お客さんに楽しんでもらいたい、ついでに自分もハッピーという、共通の目的に取り組む貴重な時間」等、「参加することがやりがいや生活の楽しみになっている」に類する回答が約8件あった。はい、いいえの2択形式の設問ではなかったこともあり、目標値には達していないが、一定の成果が得られたものとする。運営面の反省点を生かし、よりやりがいを感じられる活動になるよう、今後も工夫していく。 ・貸館利用者の満足度について、利用者アンケートに回答いただいた方のうち、「満足」「ほぼ満足」と回答した方の割合は95.8%と非常に高く、引き続き維持することが求められる。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・(文化拠点、地域連携)パークジャズライブは、出演者も運営スタッフ(ボランティア)も市民を中心とする「参加型企画」である。出演者の活動の発表の場であり出演者同士の交流も行われている。ボランティアは幅広い層の世代が活躍し、世代を超えた出会いと交流の場となっており、イベントを通して地域コミュニティの活性化に繋がっている。
また、市内各所で展開するライブ会場として地域の文化資源(建物)を活用し、地域の関係機関との連携により、イベントの魅力や特色をもたらす効果をあげている。札幌の象徴的な大通公園やパブリックスペースである地下歩行空間等に加え、歴史的建造物である豊平館(明治時代に日本の伝統的技術を駆使し建造された木造洋風建築)や旧永山四郎邸、日常の地域生活で親しまれている北海道神宮頓宮、さらには商業施設やジャズバーなどを活用し、市民には地域の資源の良さを紹介するとおに観光客には会場とイベント一体として魅力発信を行っている。

【採択事業外】
(芸術の森地区における文化拠点の役割)
芸術の森地区連合会と共催し、南区の芸術文化拠点として、園内のアートホールで「第2回芸術の森スクールミュージックフェスティバル」を10月に開催(参加70名、入場者170名)。
コロナ禍以前に地域で開催していた「地区音楽祭」の終了に伴い、学生が集う発表の場として令和5年度に創設し、地域における音楽活動発表の環境を充実させ、人口微減の続く本地域において芸術文化活動を通じた賑わいや活力の向上に寄与することができた。

評価項目④: 多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・車いす席利用者数 ・札幌市外からの参加率 ・他者への理解度	・年間3人以上 ・「札幌市外からの参加」と回答する人が5%以上 ・「外国人と知り合うことは楽しいと思う」と回答した人が20人以上	・車いす席利用者数 ノースジャム”ピクニック”セッション:1名 ユニバーサルジャズライブ:1名 パークジャズライブ:1名 ほか ・札幌市外からの参加率 ⇒パークジャズライブ参加バンド197組のうち、札幌市外からの参加バンドは60組であり、参加率は30.5%であった。 ・他者への理解度 ⇒札幌ジュニアジャズスクールのアンケートにて、ノルウェーのキッズジャズバンド「インプロバースン」のメンバーとの交流について、14人が「楽しかった」を含む感想を回答。	・車いす席利用者数 実績値に記載の他、チャリティーコンサート「ミュージックランプVol.14」等でも車いす利用者が数名来場し、年間3人以上の目標を達成。障がいの有無にかかわらず、様々な属性の方に事業を提供できたと評価できる。 ・札幌市外からの参加率については、パークジャズライブ事業において、出演者募集のチラシを市内だけではなく、道内の楽器店・ライブ会場等にも広く配架したことや、SNSやホームページでの宣伝に力を入れたことにより、市外からの参加率30.5%と目標を大きく上回った。また、市外からの参加バンドのうち、道外からの参加は21組であり、全体の10.7%に値する。都道府県の別は東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・大阪府・青森県・広島県と広域にわたる。のこのことからパークジャズライブ事業が幅広い人々の属性に訴求していることが分かる。 ・他者への理解度 札幌ジュニアジャズスクールの活動アンケートにて、令和7年1月に札幌を訪れたノルウェーのキッズジャズバンド「インプロバースン」のメンバーとの交流について、「国外の人と交流することはあまりないので楽しかった」、「異国の方との交流は初めてで、すごく楽しかった」、「海外の同年代のジャズスクール生との交流で、一緒にセッションができて楽しかった」、「一緒に演奏したり雪だるまつくって楽しかった」など、14人が「楽しかった」を含む感想を回答し、目標値には達していないが概ね肯定的な回答を得られている。 一方で、「もっと積極的に会話できたらよかった」、「直接は話せなかった」といった回答もあり、交流のサポートについては、工夫の余地があると考えられる。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

(アクセシビリティ)
・札幌ジュニアジャズスクール
ライラックライオンズクラブとの共催で視覚障害者のためのチャリティーライブ「ミュージックランプ」を2月に実施。売上の一部を寄付したほか、視覚障害を持つ方を公演に招待。当日は盲導犬との補講体験をロビーで行うなど事前の新聞記事での紹介を含め、多くの方の興味関心を喚起することができた。

・パークジャズライブでのダイバーシティ会場
会場の一つである札幌駅前通地下歩行空間北3条広場(チカホ)では、北海道教育大学岩見沢校のシアターマネジメントの授業の一環として、学生が主体となり会場運営を行っている。今回はダイバーシティ会場とし、障害の有無や年齢等にかかわらず誰でも楽しめる会場づくりをコンセプトとし、客席前方にマットを設置し、子供たちが靴を脱いでリラックスして聴くことができるエリアを設けたほか、車いすやベビーカーなどでも入退場しやすい位置に専用エリアを設け、実際の利用もいただいた。
また、従来会場の表記が日本語にしか対応できていないことが課題点として挙げられていたが、外国人観光客も多い立地であるため、会場のサインを文字ではなく図を中心とした表記を採用した。

・ユニバーサルジャズライブ
車椅子やストレッチャーでストレスなく移動できるよう、市内中心部で地下鉄直結の市民交流プラザを会場に選定。参加について、福祉施設や手をつなぐ育成会等へ案内と申込書を添付し、メールやFAXでの受付を行った。

(プログラムの多様性)
・パークジャズライブのプログラムの多様性
パークジャズライブの出演者は年齢や音楽経験や居住地域も不問で応募受付。音楽ジャンルもジャズ以外にポップス、フュージョン、ロック、ハワイアン、コーラス、ワールドミュージックなど多彩。入場無料で開催会場も公演、ホール、ジャズバー、神社、公的施設、民間商業施設、文化財など多岐に渡る。幅広い内容で自分の好みに合わせて選び、鑑賞することが可能である。

【対象事業外】
サッポロ・シティ・ジャズ(フェスティバル事業)のプログラムの多彩さ
札幌ジュニアジャズスクールや北海道グループキャンプなど育成事業、パークジャズライブなど参加型の普及事業、ユニバーサルジャズライブなどテーマ性のある対象者を意識したライブ企画、コンテスト、ホール舞台上の特設会場で飲食とともに世界トップクラスのミュージシャンが出演する贅沢なシアタージャズライブ、市内の地下歩行空間で地元ミュージシャンが出演する無料ライブなど、様々な事業を展開し、多くのお客様に会場いただいた。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥: 運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	予算計画を妥当に行っていると考えるが、人件費の高騰や物価上昇の影響を受けている。	協賛金の獲得に努める。	協賛金の獲得に努め、予算比85%以上を獲得した。	地道な影響活動を行い地元企業・団体に事業実施の意義を理解いただき、支援を獲得するとともに継続的な関係性の構築に努めた。		
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	広報計画の拡充に努めるにあたり、SNSを利用した広告の数が少ない。	SNSを活用した広告を利用して、若年層の集客に努める。	各事業ごとにSNSの運用を図り、有料SNS広告を打ち出すなど新規顧客の開拓に努めた。	SNS広告では興味関心のある層をターゲットとして配信し、効率的な広報を行った。		
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を行っている。	今後も継続して他の劇場・音楽堂等と事業運営を行う。	継続して連携事業を行った。	ジャズ種プロジェクトとして道内4地域のジャズスクールと連携した活動を展開し、相互交流や地域の活性化に努めた。		
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	今後も継続して意思疎通を図る。	年4回の施設運営協議会、2回の政策推進委員会を実施。	継続し適切な情報共有を行った。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	今後も継続して配置を行う。	芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材の配置はしていない。	芸術監督の配置はないが、事業ごとに外部コーディネーター委嘱をするなど専門的な知識を有する人材を配置し事業運営に役立てた。		
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	今後も継続して配置を行う。	継続して配置を行った。	今後も継続して配置を行う。		
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	専門人材の確保に努めているが、十分とは言えない。	専門人材の確保だけでなく、専門人材の育成に努める。	専門人材の育成に努めた。	外部講師やコーディネーター委嘱をするなど専門性の高い人材を配置すると同時に、スタッフのスキルアップにも努め、事業運営のノウハウを蓄積している。		
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	今後も継続して努める。	継続して役割分担・配置を行った。	職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。		
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	今後も継続して努める。	年齢バランスを考慮した人材確保に努めた。	長時間労働の削減に努めるなど、職員雇用環境整備を通して人材確保に努めた。		
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	女性管理職比率が30%以上であり、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	今後も継続して努める。	女性管理職比率は30%以上であり、管理職やリーダー職への登用に努めた。	財団全体の労働者(正職員)における女性の比率は55%以上であり(R7年1月時点)、継続して管理職・リーダー職への登用に努める。		
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	今後も継続して行う。	両立支援制度を整備し、推進した。	両立支援制度について、利用を必要とする職員への周知を行うなど、推進に努める。		
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	今後も継続して研修を行う。	各種コンプライアンスの順守規定を策定し、全職員を対象に必要な研修を行った。	引き続き情報セキュリティ等をはじめコンプライアンス順守のための研修を実施する。		
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている	今後も継続して研修を行う。	セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、役職別に必要な研修を行った。	全職員を対象に引き続き研修を実施し、必要な知識の習得に努めるとともにハラスメント相談窓口の周知等環境整備に努める。		
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	適正な契約書を交わしている。	今後も適正な契約書を交わす。	適正な契約書を交わしている。	契約書等必要な手続きにより業務発注を行っており、引き続き適切な事務を行う。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

◆札幌芸術の森のミッションならびにビジョンを踏まえた主催事業を展開し、すべての事業において、概ね当初の目標を達成することができた

◆人材養成事業では、講師陣をはじめ関係各所との連携や協力体制により、事業内容を充実させ、参加者から高い満足度を得るとともに、ジャズスクールの保護者アンケートからは、参加前と1年後の参加終了時の子どもの変化について、積極性や自立性、協調性などの成長が見られたとの数多くの記述があり、成果を感じることができた。また、北海道グループキャンプでは国内各地、韓国からも応募を得て、海外講師からの学びだけでなく受講者達同士が異文化交流により国際的視野を広げ、学びの充実度を向上させることができた。初めてとなるOB講師の参加により育成事業の循環の形が可視化することができ、憧れの講師を前に受講生が意欲的に学ぶ姿に、次の世代に繋がる良い影響と効果を感じることができた。運営面では、協賛営業に努め、新規、継続各企業の支援を得て主要な財源とした。育成事業継続のため、不足する財源は引き続き営業活動を継続し、事業への理解を図る。

◆普及事業では、多様な入り口、アクセスや参加のしやすさ、楽しさを重視した事業の企画に努め、全体で目標数には届かなかったものの、総じて観客から高い評価を得た。ジャズセーバーズは10代から80代の約150名が参加し、特に中学生や高校生などの10代の世代の参加が27名と多く、全体的に各会場が活気あるものとなった。野外ステージでのノースジャム“ピクニック”セッションでは、ステージ上の音楽のメイン要素とあわせ、芸術の森の自然環境、園内の工房とのコラボ企画、楽器体験、人気キッチンカーなど芸術の森の特性を生かした企画とし、来場者の満足度を高めることができた。次回以降の園内での普及型の事業においても、他分野事業との連携を視野に入れ、施設の特色を活かせるよう取り組んでいく。また、運営においては、ノースジャム“ピクニック”セッションにおいて、企業の協力により、出演者の渡航費や出演料などを協賛いただき、制作費を押さえ大型事業の実現に繋げることができた。多額の経費を必要とする野外ステージを活用した事業等の実施には、今後も運営面の工夫が課題と考える。

◆以上のことから、来年度以降も、人材育成事業の充実と参加しやすく魅力的な普及事業の実施のため、関係各所との連携や財源確保のための営業活動や安定的な運営の工夫に努めながら、持続可能な事業の実施方法を探り、各事業に取り組んでいきたい。

・ PDPOの所見

